

は異つたもの

□九十の春日を

一日に代へても
と云ふのであるからどうしでも暗
てゆく。客は有るスタッフ一本
抱へて南大門前に着いた時は八時十
分に鬼に角十二輛連結した客
車は可成に一杯に爲つた、
□乗客は約千人

□乗客は約千人

と註せらる列車

□お花見の客は

續々乗込ん

來る雨は小降りこおりに爲つて來た

城日報の云ふ通りの

雲りたそ」と呼んだ者があ

列車を驛に止めて置きますから

申に在らつしやつても差岡へは

言觸^{いふふ}らして歩いて居る、併^{しか}し列^{れつ}

か蒼洞驛に著した時

雨は全く晴れた。天佑

天佑だ誰が雨の來るのを待て

の中に躍もがんで居くるものかと籬きの
上景けいは實じつに感かん

其の光景は實に反

やらビーレやサイダを背負たり

長い

100 μ m



10

1. *Staphylococcus aureus* (10⁸ CFU/ml)

行進を始めた
 雨あがりの野は心持よく一寸ばかり
 延びた稻の苗代に柳の緑と李の花
 影に映る田舎道を車を走
 人鈴の付た馬に乗つ
 行く人牛車通行きと右左に
 れて少し進むと墨堤の三廻りの
 と同じ様に入口に一本櫓が突いて
 るこれが加五里の入口である
 峠に登つて見ると濃淡の
 花は谿一面に咲き充
 其處から薄い濃川は流れて来
 空はもうすっかりと晴れた甲斐者

花の下で
 飲めや唄への
 さんざめき
 花の加五里は人の山、汽車のお
 午前十時頃から繰込んだ時には
 車俵で東小門から繰込んだ運中
 かゝに多く春雨めのお天遣様
 にうらゝかな春日和となり見あ
 開な春色である、花旦の客は
 加五里入口の濃川のほとりから
 車や俵を乗り捨て、「美し
 く」を選擇しつゝ進む、櫻

今が眞つ盛り
 淡紅桃の如き
 あれば純白雪の如きもあり一瞬

白い巴且香が香る、春が匂ふ。右も
 左も花その花の下で長き
 袂を繚す乙女もあれば
 酒なくてなんの巴れが連中もあわ
 衣香華花にも劣らず美しい、行き
 行きて添々たる溪流のせしちき
 の鳥の聲などに耳を澄せば花間には
 まだうららかな蜂のうなり聲さへ鳴
 へてくる、更に稲垣農務の門内には
 れば李朝百年の雨に古りにし誠遠
 には翠々たる大鼓の音に

美しい妓生の
 歌聲が聞え

一室には楊小竹、高伯や、環美人、竹
 女史の雅愛が、庭前の丘には、
 鮮古老の乃術大會在が始まつた、更
 櫻の右手、一目千本の天幕に昇れ
 妓も亦見渡す限り花威
 り遙かに向ふの若洞の
 青野にはわら／＼と、同炎が
 えて居る、見まぐれば柔かい春光
 庭前の花は、いよ／＼、庭前に

[illegible]

<p>薄記募</p> <p>御生 寄生 校生</p>	<p>之中學學生を中心として、 情と理解の 大車輪の終 新時代（學生の） 千名 富選 大懸賞 を中學生を比 讀む頁を開 限目次を見る 「一冊僅に筆」</p>	<p>堂々たる</p> <p>中國</p>	<p>本書は國際界の重視する著者か 所さへあれば年中絶えざる花が 栽培法苗の育て方 發兌</p> <p>(刊新最)</p> <p>四季子</p>	<p>大隈伯爵開序伯爵</p> <p>探偵零下百十</p> <p>小説</p> <p>冒險</p> <p>五月號 定價十八圓</p> <p>日本海軍飛行家壁 ▽稲葉金壺の壺 小形青村 ▽山下學の警詩 長瀬春風 ▽大戰渦中の人物摩天樓 ▽小説零下百十</p>
---	---	-------------------------------------	---	---

講義録 本會は本邦唯一俳諧講習機関也
大日本俳諧講習會
東京 博文館
錢郵税一銭半
第一回四月十五號
第二回四月二十二號
落し劉余が遺囑 アートスミス
▲睡山大王を夢想せる獨幕帝 柳天機
▲十年生計の物語 幸崎龍雄
▲ラアレス伯爵の牢獄逃走 加藤外
▲痛快無比海底の連兇の活動 中野銀月
九十度(肉體) 阿武天風
好讀物
酒井忠興 開著 下巻 六和苑 新入
家庭園藝 一本巻 六和苑 新入
學生 創刊號 見れば百日
總ての用意新雜誌!!
溢るが如き同行
とを以て記者が所
努力した新雜誌!!
味方をする新雜誌!!
員募集 中華事件に關する
持たぬは學生の恥!!
開けても生氣潑瀾!!
つ丈でもタメになる!!
社究研
五錢郵送料 毎月一回二日發行
分前金壹圓七十七錢
集 日本俳諧講習會

月夜不...

創彼日	二申入	四
日	百八	日
三月廿二日	生樹夜	五
三月廿二日	七	三
九月二十日	月	月
九月二十日	十	月
九月二十日	一	月
九月二十日	二	月
九月二十日	三	月
九月二十日	四	月
九月二十日	五	月
九月二十日	六	月
九月二十日	七	月
九月二十日	八	月
九月二十日	九	月
九月二十日	十	月
九月二十日	十一	月
九月二十日	十二	月

洋協會長小松原桐密顧問官は三十
午後九時南大門著巴城館に投宿
宗教家より精神上の講話を聞き
憲兵派遣所長より一場の訓話

創彼日	二申入	四
日	百八	日
三月廿二日	生樹夜	五
三月廿二日	七	三
九月二十日	月	月
九月二十日	十	月
九月二十日	一	月
九月二十日	二	月
九月二十日	三	月
九月二十日	四	月
九月二十日	五	月
九月二十日	六	月
九月二十日	七	月
九月二十日	八	月
九月二十日	九	月
九月二十日	十	月
九月二十日	十一	月
九月二十日	十二	月

受³は
三十日朝歸在
▲志村源太郎氏（勳四等瑞）二十九日夜入京朝
鮮ホテルへ
タンクスデン用
大マダグネ
手廻機
礦及



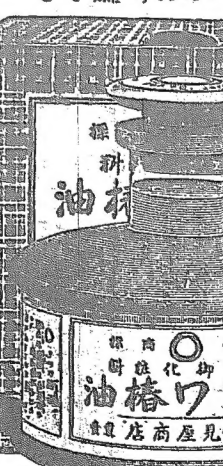
100

[illegible]

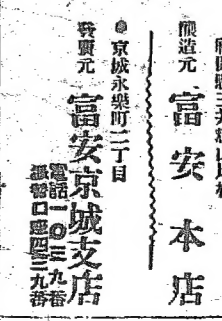
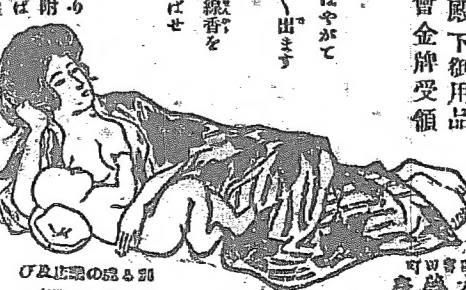
會して宜しといふ事になれば御門
通鑑といふのが出ます、其れを受
取つてお通し申しますから少々湯呑
所にお控へなさい……」其所で武藏
先生驚ろいたが致し方がない、宮本
一人で控へて居る、黒の羽織を着た
人は山本先生の所へ問合せに行つた
サア大變な事を出来たぞと云ふのは
問合せに行けは山本源應治先生は一
面識もない男であるから、知らぬか
ら知らぬといふに違ひない、知りも
せぬ者を兄弟同様の間柄といつて御
門下を爲り城内を見送しに參つたか
關ヶ原大坂の合戦終つて徳川の御用
心なさるゝ事一通りならぬ、何で懸
意といつて爲るか、主人小室原に頼
まれたか、父伊織に頼まれて來なか
となるゝ、君父の御身の上に拘はる
やうな事になつたぞ言つて二の丸御

あるから……山本の返事次鎮直
腹を致さうと待つて居りました、
詰つて此方は山本先生方へ來
て「お頼み申します、只今二の丸
の御門下へ宮本武藏と申す者が來
斯様くでございます宜しければ
門通鑑を願ひます」と申入れた時
山本先生は一滞の指南もする人で
に依て分別もあらぬますから、
らぬと云ふ事は仰しやらない、
で宮本が己の所へ別懇といつて來
か知れぬ、當時の士は宮本武藏
知らぬ者はないが、是には深き仔
があらう、此方へ通して見よう、
うして留めて宜いければ止め、追
て宜いければ追隨す、日れが知
ぬといへば常人が迷惑しようこ
斯う考へられましたから、家來に
つて源兵衛の代名として御

京城西大門外竹添町二丁目
東京千草園分

[illegible][illegible]

出張
外内外



病者は絶て！

原因の何れを問はず

生存機能に必要な！

「鐵質」の体内に缺乏を來す者なら

「其鐵と鐵分を」理想的に


補ふもの最新發見

体力保全
補血營養

然もフェロールは美味芳香婦人に尤も適當

フェロールあるのみ

本館
大阪道修町
小西久兵衛



小坂 十日分

合衆店

京都南大門通
釜山辨天町
元山港

新井藥房
大塚藥舖
石田齋生堂

京都太田通
木更津市
安東縣市場

キムラ藥舖
木下藥舖

朝鮮銀行

支店出張所
東京、大國、平塚、上川、元山、大井、釜山、
鎮南浦、群山、木浦、馬山、羅南、台琴、
新義州、安東縣、奉天、大連、長春、
右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

[illegible]

五月一日より全

大谷 光瑞
 放浪漫記
 三才十八日（シヤンツラ街にて）

下
帆
第

墓タルシン
五日夜ウヤ
を考テ七日
ヲ高麗長ス
リ無憂王ノ
位宮ノ遺跡
は皆て我邦
ノ知人にして
同式に感謝
セバ部邑の
七ボクハ開
地地帯に上
亡、投資家の低利債に赴かんとする

○社債の賣行良好、七八銭のもの額面以上二三銭を喰へたるも昨今金利は低劣と共に一流會社は増資により、低利に借當り、高利社債を償還せんことを望み、宇治電の八八八株は來る三月金部現合償還に決し、阪神、倉敷船、合資船、神戸電燈、大阪鐵工所等短期を見て漸次高利債借當を整理せんとす、今額面以上のノレミヤハを握ひたる高利債を買ふも直に額面償還をうけるは幾ん大損に、投資家の低利債に赴かんとする

上村照山全(三)

人々
 飲に
 心す
 べ
 心
 則
 な
 此
 社
 ざ
 い
 し

老臣宿將が困窮するなき
 へ
 省知事以下の遊樂地を爲せり、



大陽支
局にて
青霞

[illegible]

中學講義
 總長大隈伯名譽學長高田博士指導卅餘年
 本邦第一の講義大特典提供入學の最好機
 商業講義
 規程
 見本
 則書
 込申
 送呈

朝鮮彙報 大正五年五月二日 (定四二十五錢 郵税二錢五厘)

●口繪 一、新設の總督府専門學校
二、其井川の柳花、湖南線榮山江の風景

●各道長官に對する寺內總督訓示

●總督府立専門學校綱領

●經國大典及其の後の法典 淺見高等法院判事

●英國通信事業の概況(下) 矢野遞信事務官

●江原道農林畜產技術員會同席上に於ける講演

●爲行者事績 三月中の朝鮮貿易 二月中東京に於ける朝鮮米概況 大阪對朝鮮貿易 大正四年米實收高 大小麥優良品種普及の狀況及其の栽培成績 大正三年度地方費經營人工造林事業成績 大正四年桑田反歩 大正四年優良家蠶繭の販賣狀況 遞信事業概況 三月中の鐵道運輸 河川調査の狀況 ダングステンとモリブデン 朝鮮產畜推動物目錄 公證事務に就て 路上略疾検査 大正四年春に於ける害獸特にヌクテ一の被害及驅除 白蟻類挿穂の作成方法 指紋に就て 慶尙北道及忠清南北に於ける棉作狀況 慶尙南道方言 外國事情 地方通信 雜報 質疑應答 叙任及辭令 統計 法令及通牒 判決例

●朝鮮語の研究 新庄通譯官

●投稿を歡迎す 原稿締切期限毎月十日

●販賣店 東京神田巖松堂、朝鮮各地の書店に販賣す

●廣告料 一頁十圓 取扱店 京坂 ウツボヤ書籍店

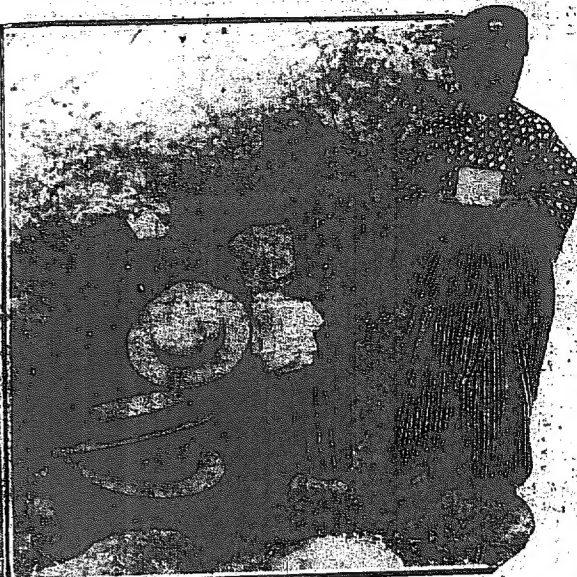
青山原頭に於て、

年
英
口

東京神田
三省堂
局七二・一七四九
東京一五五五

如何
 常都の市民を奮起せしめ
 たり。飛行機の雷退り (The long the long)
 は風に天女の舞もかくやと云はれしなり。
 我飛行外に多大の刺激を興へたり。
 氏の得意とする處の木の葉落し (The leaves fall)
 の如き、其の妙なる人間論に思はれず。又
 夏目漱石 (Shimoda) を快走せしめたる等の事實は今後記憶の上に
 登るべし。加へて、是等の新聞を包含する英和辭書の我が我
 が大規模な英和辭書と稱するのみ、直に本辭書を新語の豊富なる上、附註が他の
 辭書に比して傑出してゐる等當に英和辭書の類たるを失はず。

加五里の寶探し 銀側時計當選者 其兄妹(上)
朝鮮弓術大會下 (上圖右に立てば仁川粉町、順興、君仁、中央及び左に對稱せる其の弟妹、妹一君、無日寶探しの、大物たる、銀側時計、弟はさるる妹は、子爵子海軍の兄妹、何れもニコニコと數點の得、堪へざるもの、如し)



赤前垂に紅襷
名物櫻餅なんば

赤前垂に紅襪
名物櫻餅なんど

晴れよ、晴れよ、吾等が花見の此の一日に盡すに晴天を以てせよ——とは千餘の花見連中を乗せたお花見列車が南大門驛を出る時から龍山、往十里、燕涼里を経て倉洞に著くまでの間に於てあらゆる人の口を飜いて出た言葉であつたが、此念願は汽車が倉洞に近づくに連れて効を奏して來て倉洞に著いた時には花曇りの空に雲の切目さへ

目差す

目差すもの
思ひ思ひに立別れて十數丁に打つて
いた長銃は二分されて敵呼がいづれ
にも起る。牛車洞行きに加へた余
は前後來の降雨で少しし崩れかゝつ
た二間道路を動もすればはなへりさう
になるのを危なく踏みしめゝひた
よるに急に、既に汽車の中か
ら可なり煽つて御機嫌
潮く斜になつた連中の中
には逆に持つたビール瓶を打振らな
がらの手足、泉明交りの調子面白
く道を狭はめてゆくのが多いので人
力車を古什して恥上然、又戻つて
來た者

に鞭打ちながら

花に狂ふ群衆
寶琛しは大

花に狂ふ群衆
實探しは大

「實探しは、
の加五里の賜はひは午後
増して来た。花に浮か
は三々五々に集まつて皆充分
足」實探しは、
の満開は從
つた事が無い」とは

異口同音の歡び

それに牛車河から移しこむ
午後から京城を出發しな
あり裝束行列の一隊もあ
里は人の山興はいよく
る、斯くて午後一時にな
社主權の實探しは

樹間に始まつて

る招魂祭

理すな（の服はひであつた。實
 引換へは漸次に始まり始め電気會
 の林氏が煙草を捲りあてゝ大明來
 團するや大きには南大門通の島田
 氏が反物をあてて大落
 藏し、また、又南大門通九州屋
 本下君が反物をあてて大ニゴ
 次々に電気會社の小西氏、京城印
 所の桂君、高田縣の高瀬氏等の
 ◇反物から最後の 大關
 中計は仁服松明の服が飲一君
 いふ小高、水城生にあたるなど此
 も彼處も萬々幾日中には一人でも
 山はどあてた幸運者も
 つた、呼物の号も二時頃から始ま
 る假行列が行く歡聲が起る何處も
 處は大歡ひ、花の群集は午後三時
 頃から各自京城日報の萬祝を三唱

踏んで集ま
京城府招魂祭々典は既記の如

京成府指現祭典々典は既記の如く三
日午前十一時より南山京城神社に
ていと莊嚴に執行せられたり、夜
の春雷鳴り降れて集衆南山を照ら
しより落石を誘ひて驚るもの引も
らた定刻前既に百數十名と計せら
る式場は陸奥盛安公園上
◇の大廣場に設けられ
周圍に幔幕を張り南面して祭壇を
く、壇は神佛儀式に對せられ香燭
く達うて幽魂を招き、樹の陰に照
る神鏡に神々宿らむ、實に莊嚴の
致なり、午前十一時といふに谷村
王以下齋員一同並に在京各宗僧綱

若い美術家
金剛鐸君の
diversity (diversity) in

金親翁君は、大阪府高槻市の人である。此の三十九年、
 佛蘭西に幸へて九年、地を一時見て来た。君は
 色、彩の濃厚な内地の春を親し
 合つて居つたお友達などに盡せぬ
 感を惜んで此方へ歸つて来ますと
 が自分の生れた故郷であるかと
 分ながらに疑ふほどでありまし
 たら、山紫水明の地であるがうへ
 自分の生れた處でありますから流
 石に何物かに心を唆せらるゝ
 にあらず矢張り何處やら落付きの
 旅を爲し居るかの如うな心持で
 あります。平地の山の姿や水の光や奥

若い美術家
 金親翁君の誠し

守官 總督府内各部長官 課長、所
 官署 長官 局長、氏子總代、親
 道族、各職代表者等亦一同、著
 されは式は修職にはじまり、谷村、
 主進むて招魂の式を行ふ此間
 ◇齋員等し、漸次し
 ◇参列者悉く起つて
 祓禊す、應て奏樂裡に神饌を献じ、
 主の祝詞に次ぎて各宗僧讀位、
 前に進み道師燒香の中に御陀の行事
 あり、經を誦じ回向文を讀み祭主金
 府府祭文を奏して、齋員一同列拜す
 に祭主市巾を献じて退き、祭主代つ
 て禮拜す、其れより参列者の拜禮に

愛國婦人會員、京城婦人會、

を招き、親類者連席は勿論日本赤十字社員、愛國婦人會會員、京城婦人會會員、軍政各部、有鄰婦人會、警察官等、各私立學校職員生徒代表者等亦皆参拜す、斯くて

◆奏樂裡に神便を撤し
○副齋主井原の式を行ひ
茲に當日の祭式を閉せて齋員、僧綱徒退場すれば参拜者一同祠前に於て神酒を拝受す、此際空母に雲りて若菜に宿る露重なりき

●赤十字觀光團の出發
日本赤十字社朝鮮本部の姉妹にかゝる本社總會參叨内地觀光の特別社員及び支部職員等の有志は内野人を合

んで居るのです、朝鮮から今来

美なる遊覽なる山水はもう其れ
に實蹟であります、其れその者

染んで居るのです。朝鮮から今東京
に留學して居る生徒は三百名餘りに
爲つて居りますが其の多くは法學生
で最も少いのは美術研究者でせう美
術學校に入學した者は卒業者と現今
の在學生とも三分切りでした斯う云
ふ風に朝鮮人の頭が美術の方面に向
いてはないと云ふのは勿論生活問題の關
係もありませうが彼等を生んで彼等の
幼い頭を育てた朝鮮の山川があまり
に荒涼であつたからでせう其處へ行
くと内地です内地の

二十九日夜著別れ語を持ち出し
果夫婦喧嘩をなし其に左腕を

五日頃歸郷の豫定なるが朝辭本部より大森主幹外一名總督府より寺川りは太極主幹外一名總督府より寺川通譯生、道員より肥前縣桑原同佐は貧賤すべく内鮮人融合の内地觀光は今回が始めてなり其姓名下の如し

田垣及村山白樂全額捐付相續中
高橋龍太郎米屋元安支店長竹品
李錦榮加藤一雄支店長林清貞
村上大次郎金店三谷隆興金店
林廣樹助安部三郎小嶋源助林清忠
桂澤武安部三郎林茂五成文金和昌
李國順三川武藏殿の水産會社
寺川出洋天倫大船會社
寺川出洋天倫大船會社

●泥酔して井戸へ二十九日午後十一時東京城光臨町三十一年共同井戸年齡二十五歳ばかり男一名泥酔のため誤つて墜落し居るを同行者が發見し急報したるより黄金町七日目派所より警察隊が出掛け手當を加へたるも泥酔の爲め言ぜ不明なるより同夜保護を與へ翌朝説諭の上放逐せり

●贈付かれて投身木浦江

我身し自殺を企てたるも幸ひに

見し救助したりと

●衝突して頓死 高陽郡龍江
里荷牛轎馬車衝突玄室木^一同
日玄米五斗八匁約百六十員目を荷
車一臺に積み乗伊は前挽玄水は後挽
しをなし京成義州通二丁目石田精米
所運搬の途中中林河の坂道約二丁
目を挽き降る際下方より登り来りな
る吉野町二丁目成徳後柳吉史^二を
を突き倒し腰腹を志せしめて上

の間に本家本元の歐洲を凌駕す
云ふ様な隆盛を來たした事も要

の間に日本本邦の歐洲を渡駕するに云ふ様な隆盛を來した事も要するものと土地そのものが先天的美術家を生むものと永い間の美術的進歩の勢力であることと思ひます朝鮮人でも美術學城へ入つた者も不思議に山水の美を以て半島に

訪つて居る半島から二人京城へ來たら一人と云ふ風であります矢張かうしても審美的思想は山水が人に與へる美妙なる感化の力であらうと考へられます今度私は家庭の都合で歸つては參りましたが内地の風光は名奥も私の眼を離れな事はありません私は常にその美しい山や水を戀ひながら居ります

これから龍山、蘇島、獨立門外の所に意外の花を発見する。

●善權少教正逝く
金光 東京 城教會 長權少教正善
願氏は二十九夜逝去せし氏は馬
の康始め醫業を修め後政界に
大躍目し社にて小松原太郎氏
と民権自社の編輯に熱心無
班班を主宰したるが接解無事
て彼の有名な神事件公判廷に
護を爲したるもあり明治四十
神道金光教に入り一聞京城教
に遊ばせし京師に來り日鮮人の布教感
に遊ばせし交友廣く名士頗
く改訂編輯理事の如き 庄外の親友
して奥前衆議員議長、石黒行平氏
は其の門に遊びたる人なりと

花の加五里 牛車
も、三十日の月麗
れ盛を打止る
花といへば加五
の風情となつた

うわさ
うわさ

牛車脚に占有されて了つたが、中

ある、若し夫れ此頃の潮の一時

見學の爲上京中の處二十九日
歸京 齒科醫飯塚徹
 ある、若し大抵此頃の潮の一時間
 路を踏んで散歩するなら銀鞍白母
 珊瑚に懸はなく十分詩趣を味へ
 伊達若と長春
 東城は伊達若より長春は長春
 受けるよいやうな、成る程に
 の、伊達若に比して、
 の、伊達若に比して、
 然し、伊達若は女として
 一段の、伊達若は女として
 一段の、伊達若は女として
 一段の、伊達若は女として

下手であるが、節廻しに缺點が多いのは、拙作に於ける所である。拙作に於ける所である。拙作に於ける所である。

[illegible]

見習看護婦至急人用
希望者本人午前中來談

[illegible]

り京城堅志洞電話九四五編物誌

京成本町一電 三十三生松井松築
 雅誌明會 五月號者 朝報參上
 諸鑛石分析及測 外
 京成本町一電 三十三生松井松築
 雅誌明會 五月號者 朝報參上
 諸鑛石分析及測 外

中學講義錄

<p>五月節句人形 三色の地 角のまき大強丸大賣出 三階御川達 石見堂 電話三三二</p>	<p>事務員入用 土木建築機具賣 鞍馬の者急入用者望 京電二六〇四 勝呂喜代</p>	<p>英 語 科 幕 新 學 期 修 生 徒 英 語 科 幕 新 學 期 修 生 徒</p>	<p>朝鮮語科 幕 新 學 期 修 生 徒 幕 新 學 期 修 生 徒</p>	<p>女子學 幕 新 學 期 修 生 徒 幕 新 學 期 修 生 徒</p>	<p>中學講義錄 幕 新 學 期 修 生 徒 幕 新 學 期 修 生 徒</p>	<p>三級職下 幕 新 學 期 修 生 徒 幕 新 學 期 修 生 徒</p>	<p>京大 幕 新 學 期 修 生 徒 幕 新 學 期 修 生 徒</p>
---	--	--	---	--	--	---	---

朝鮮發賣元(寶二〇三五) 本

外勤社員招聘 經驗者 待遇優厚 有意者請向
 希望者自筆履歷表携帶來誠 或向
 一〇六 太正生命 保險 東京市
 城支部

宇茶 清心堂
 京成本町二丁目龜屋牌
 治茶器 電話二千五
 並に茶器 振替東京三五一八

礦物定量分析
 京坡吉野町二丁目元仲の新地遊園
 內科 小兒科 雨森 醫院
 (診察往診無料)

鑛物分拆 迅速
 二の三〇 朝陽分拆
 太平町 電話一三四四

重石水鉛買入
 京城瑞福洞 大菱商社
 光化門郵便局 雷川通 電話四八八


玄米乳 發明東京化學研究所
 一合三錢 京成本町倉前町
 一合三錢 京成本町倉前町 電話一五四

町治明城
星崎

東名別)星明之草

西關

版○島福上市販大 所行發
 號五十五冊六年ケ中)



材寫
料眞

日丁二町治明城

店商屋崎

に餘年選三を僅刊創!! 見圖

朝之
 番〇六九
 (四一
 本希總着は
 往復ハガキ
 にて申込ま
 る可し

一山 122 123 れ五経會
130 132 機勝 局 134

満蒙處分論

京城 日興代理部

食料品

京城旭町

川西商店

小賣部

電話一三六七

振替京城

よい品を

安く賣る店

空論を避け實地指導的

に應用の意見のみを掲載す

114 見を誌本るたり候をドーコレの昇誌雑誌農邦本し意
 114 治三、113 七 店所 番刊 103 刊、276 番刊 293 114 林 番番 104 121 本ノ紙

は質子をなり、常に流離

推しを穿つてのてあつた。
 秀吉は笑つて用心するならば、此方でも堅固の陣立をしてくれうぞ。
 本多三郎、丹羽勘助を召せ」
 家康は山を降りながら、兩人を召し出させた。即ち本多三郎、重を、國屋屋敷の奥に遣はして、父殿後守賢孝を助け、豊橋城を堅固に守つて、三河の通路を安くせよと命じ、また丹羽勘助氏次に、同じく岩崎の城の守りを固くして、敵に當る備へを立てよと命じて、即座に彼處に發向せしめた。
 梅 法難に無策の衆や梅の花
 トンネルを出て息も、蜜い梅
 木流し宿の木曾賢や梅の村
 月日と腕を過ぐり梅の花
 流れ來て深みに沈む梅かな
 猪牛場に尙食ひ牛や落猪
 尙染めて老いぬを思ふ權哉
 荷はて馬背よひひす落猪
 椿總よに流に下る小路かな
 堤の藪は椿に盛きて川廣し
 木の芽
 木の芽地をのりて歩む鶴
 木なす手葉諸萌任る農家
 木なす手葉諸萌任る農家
 同犬

[illegible]

仁川本町

醫學化驗諸

診察時間

初診の御方は可成午前
京成長谷角町一丁目

シメ

▲一手販賣 京

孝一著 論語教授

新報版新

孝一著 論語教授

孝一著 論語教授

新報版新

孝一著 論語教授

北島藥店

電話三四、振替京城六七番

聖職式

自午前九時
至午後六時

前中

（白朝郵便銀行裏門前）

ノウチ齒科醫院

電話八一二番

城日報社代理部

法精義

受研究新法

定價
銀四十圓

定價
銀四十圓

哲學

四季園藝

定價
銀八圓

定價
銀八圓

目丁二町南城京

番七五二一五〇四振郵

水ス花鏡ニ（各）

金光教京城教
會長權少教正
善積順藏儀
 氣の處遂に本月廿
 九日午後十一時二
 十分歸幽致候葬儀
 は五月三日教會所
 に於て執行可致此段

三 新原鍋屋
 鹿兒島縣川内
 鑛業用水車金物
 摩式碎鑛器具
 タンブ杵白底鐵金物
 銀燒分器乳鉢並に搖鉢

死後是如何のヨリヤ
 御印式仕動請速 謝本
 御位白土 活 謝本
 日 日 日 日 日 日

大阪屋號書店
 電話 〇八六番新原第五上馬

京奉
神用命
上希上
大京
京大
葬
社

電話 〇五六番

泉觀泉間自動車時間

金泉織居自動車支店

印浦項間自動車時間

大塚農場自動車部

大郎出張所

日本郵船出帆

大阪商船出帆

宗公一州

公一州

公一州

公一州

公一州

公一州

公一州

[illegible][illegible]

無雙醇良清酒



品·質·無·雙

衛生無害

藥種賣

永京
樂城
町本
色

告白
四月三十日
金光教總教會所
嗣子 百合子
親戚 總代
教友 信徒總代

金光教胡鮮布教管
理所書記金光教京
城教會長權少教正
善積順藏病氣の處
一十廿九日午後十
時廿分歸幽候間
此段謹告候也
金光教擺管理所

切實注聞 北京 ○△×○×△×
○△×○×△× 未週聖之信信信信

[illegible]

▲五月人形の大番發
 行は昨年より好いといふ事だが今年
 の買大將は大阪の久原房之助氏一千
 五百圓、横濱の小野俊三氏が千三百

精實な日本地圖を買入れ、之れに夫
要、密下女の四人が同乗じ、廿日東
京出發、東北街道を下り廿四日京都に
至したが、二十勅の道

語つて居る
探検家の行
ツクルトン氏
南極探検家
休南氏の出
旅向迎

して御座中にさうか

誰も貧乏に厭で、安樂有福な暮しを爲たい
ミ願つて居るのですか、暮し方の下手な爲
めに、貧乏で苦んで居る人が澤山あります
此本には如何すれば金を溜めて、樂な身にな
る事が出来るかといふ事を、誰にもよく
分るやうに易しく面白く書いてあります、
例へば、乞食のやうな貧乏な女が百萬圓の
長者になつた話もあり、五十歳の水呑百姓
が引續く不幸の爲め食ふや、食はずの憂目
に落ちたに拘らず、後には樂な身になつた
話もあります。

一冊の代價は僅に十五錢、送料は二錢、雜誌
一冊の値段ですから捨てな思つて、買つ
て讀んで御覽なさい、成程と御悟りになつ
て、大きな徳をなさる事は請合です。

▲一手販賣 京城日報社代理部

診察時間
初診の御方は可成午前中
至午後六時
京城長谷町二丁目(朝鮮銀行裏門前)
シメノウチ齒科醫院
電話八二五

衛生無害

品・質・無・双

有 雙

首藤合名社會吟造

白精即小賣ルービンシキ
サボツパービルー油盞甲萬
各種各樣三失引イナイ種各

朝鮮發賣元

首藤京城支店

[illegible]

金光教京城教
會長權少教正
善積順藏儀
氣の處遂に本月廿
九日午後十一時二
十分歸幽候葬儀
は五月三日午後一
時永樂町教會所に
於て執行可致此段

金光教朗鮮布教管
理所書記金光教京
城教會長權少教正
普積順藏病氣之處
四月廿九日午後十
一時廿分歸幽候間
此段謹告候也

金光教總管理所

○ 飯過ぎ 食過ぎ に炒なり
 徳川千代子 桂枝 桂子 五十鈴 一四
 本館 東京 長崎 大阪 大田 信濃 義典
 ▲ 全国にわたる 各店に販賣す

葬具一式
 造花 生花 花壇 骨 寄贈品
 裝飾品 花壇 一切
 楊切 塚 本館の 主 任に 候 間
 押用 命 奉 給 上 候
 京城 永 樂 町 三 丁目
大 葬 社
 電話 二〇五六番

旭町二丁目(京政府所屬)
株式會社 京城葬儀社
 二川原
 中河原重吉
 井上芳太郎
 電話九五七番

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]